

第2回
沼津港振興基本計画策定委員会
～新たなビジョンの策定～

平成27年1月14日
静岡県

第1回有識者会議・第1回策定委員会の概要

いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

静岡県交通基盤部

第1回有識者会議 発言要旨

沼津港ならではの“ONLY ONE”の魅力

- ・「沼津港」をほかの港の名前に変えても成り立ってしまう理念ではよくない。
- ・沼津港は「港の日常」が魅力ではないかと思う。
- ・魅力は何か一つに絞った方がいい。いろいろ羅列すると目移りしてしまう。
- ・ONLY ONE。沼津港ならではの何かがほしい。
- ・「ここでしか」と言うのが最重要。
- ・観光でやっていくという認識は皆同じ。沼津港にしかないものを目玉にした空間を作り上げる必要がある。

周遊性

- ・沼津港はにぎわっているが、「点」であり周囲への広がりがない。周遊性がほしい。
- ・沼津港の内港のように、歩いて一周回れる所は全国的にも珍しい。びゅうおを活用しない手はない。
- ・沼津港の客の増加が市内や伊豆方面の客の減少につながらないように注意が必要。

ターゲットの明確化

- ・単に「観光客」ではなく、日本人なのか、外国人なのか、一見さんなのか、リピーターなのか、ターゲットを明確化させる必要がある。

短期、長期の集客戦略

- ・沼津港に客が入っているのは、団塊の世代のシニア層が多いから。
- ・最近の若い世代は海や魚から離れており、10年、20年先も続くとは思えない。
- ・リピーターを生み、来るたびに楽しませる戦術も重要。1回目は「食」目当て、2回目以降は「食」以外にも実は・・・のような戦術。

その他

- ・沼津に住む人が良さを発信していくことが重要。
- ・レジャー施設は飽きられると廃墟化する。
- ・観光客の動向をみると、「食べる」「買う」がメイン。残りの魅力の一つである歴史や文化は、浸透していない。これらをいかに売り出すかがポイントになるのでは。

第1回策定委員会 発言要旨

沼津港の強み

- ・沼津港の一番の強みは、水産業の営みである。
- ・千本松原や富士山から生まれた芸術を活かしたい。
- ・沼津はかつて商都として伊豆の玄関口であった。そこを強みとすべき。

計画の方向性

- ・若者や地域の方々の意見をもっと取り入れたい。
- ・沼津⇒静岡⇒日本と、点から線への展開を考えたい。
- ・中心市街地である沼津駅周辺と沼津港の賑わいを一体的なものにしたい。
- ・港の機能を妨げないことが重要。
- ・市場の賑わいと内港の高質な水辺空間の差別化を図りたい。

現地の課題

- ・沼津港周辺は統一感が乏しい。
- ・歩行者の動線が切れている。

委員からの指示事項

- ・ワークショップや有識者会議で出た課題を整理した図面の作成。
- ・観光客の交通手段やリピート率の確認。
- ・沼津周辺のマリンレジャーの状況調査。
- ・沼津港におけるクルーズ船の可能性。
- ・沼津港の内部環境（漁師の方々）のデータの提示。
（漁業従事者や市場で働く方の年齢層や居住地等のデータ）

スケジュール

平成26年度						平成27年度					
10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	◆第1回 有識者会議 (11/26) ○基本理念・方針の視点										
	◆第1回 策定委員会 (12/1) ○基本理念・方針の助言										
			◆第2回 策定委員会 (1/14) ○地元意見聴取 ○基本理念・方針の整理								
			◆第2回 有識者会議 (2/5) ○基本理念・方針の確定 ○ゾーニング								
			◆第3回 策定委員会 (2/17) 予定 ○具体的施策と将来像 (案) ○イメージ図下絵作成								
			◆第4回 策定委員会 ○将来像 (案) ○イメージ図 (案)								
								◆第3回 有識者会議 ○策定委員会から報告 ○将来像策定			
								◆第5回 策定委員会 ○将来像に基づく実施工程の策定			

- ◆有識者会議
- ◆策定委員会

※会議回数は必要に応じて増減する場合あり。

沼津港の魅力と課題

いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

静岡県交通基盤部

沼津港の主な魅力

港八十三番地と深海水族館



干物等「食」の魅力

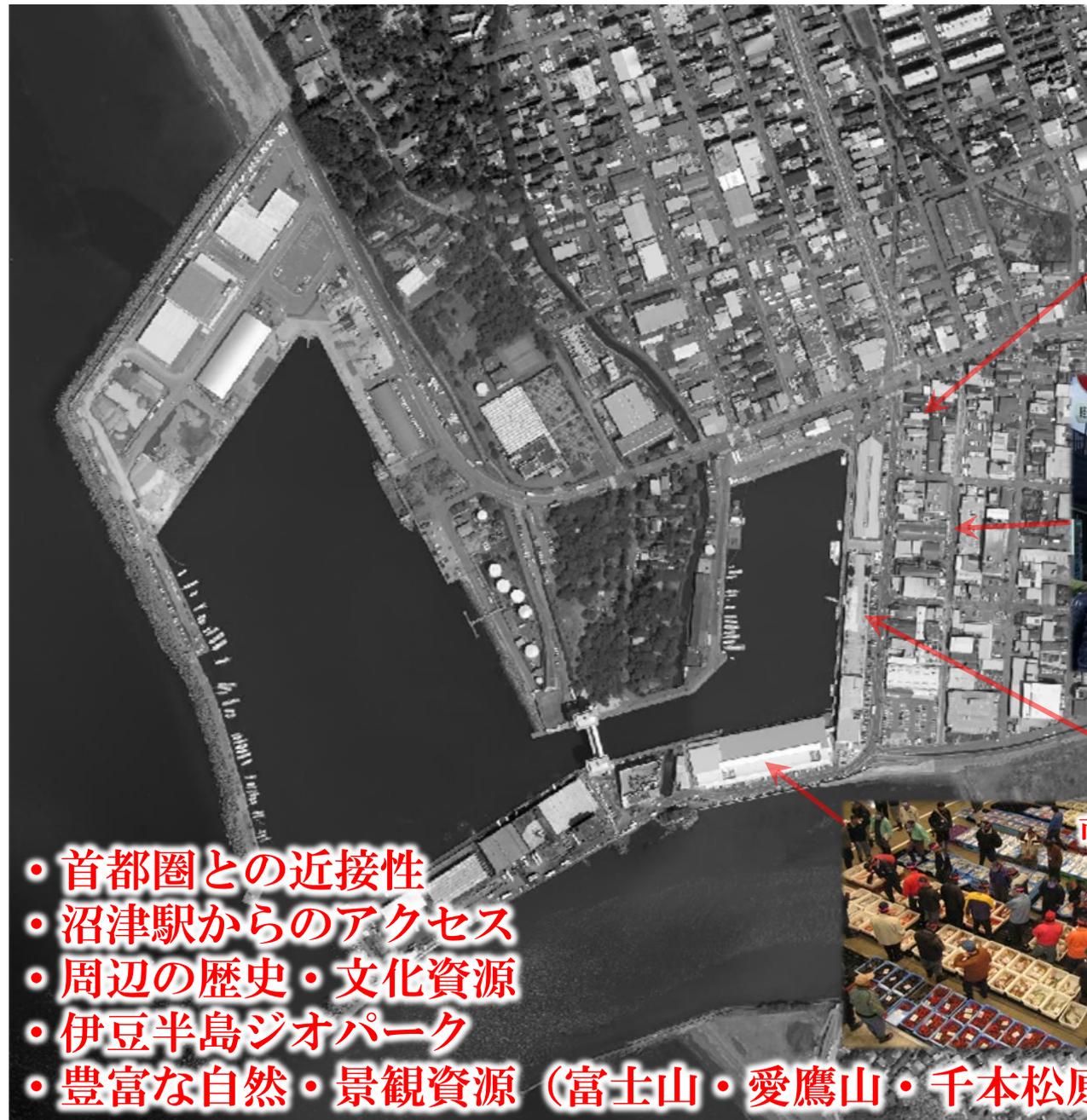


商店・飲食店街の活気

市場の活気



- ・首都圏との近接性
- ・沼津駅からのアクセス
- ・周辺の歴史・文化資源
- ・伊豆半島ジオパーク
- ・豊富な自然・景観資源 (富士山・愛鷹山・千本松原・狩野川等)



沼津港の主な魅力

<沼津港の地理>

- 首都圏との近接性
- 沼津駅からのアクセス
- 豊富な景観・自然資源（富士山・愛鷹山・狩野川・千本松原・伊豆半島ジオパーク 等）

<沼津港の歴史・文化>

- 周辺の歴史・文化資源の存在
- 古くから皇族・文化人に愛された風土
- 昭和初期から始まった港湾としての歴史

<観光>

- 市内の観光施設・イベントの来場客数が減少する中、年々増加傾向にある沼津港
- 港八十三番地や深海水族館等、民間活力による集客力

<食>

- 首都圏からの日帰りツアーで昼食場所として選ばれる食のブランド力
- 全国一の生産量を誇り地域ブランドにもなっている「あじの干物」
- 駿河湾の特色を生かした深海魚の活用

<活気>

- 沼津市内随一の活気を生み出している商店・飲食店街
- 市場・漁港の活気

沼津港の主な課題

動④：市街地との連続性の不足

動⑤：西伊豆方面へ動線確保（海上・陸上）

動③：千本松原との連続性の不足

利④：定期航路の廃止

全体に関すること

- 景①：全体的な統一感の不足
- 景②：視点場の未活用
- 利①：周辺への波及利用が少ない
- 情①：港内案内情報機能の不足
- 情②：周辺への案内情報機能の不足
- 情③：防災情報の不足

景④：外港の鉄くず

景③：老朽施設等の存在

利②：昼間に集中した利用
（一部で夜間利用も進む）

利③：水産物流と観光の（過度な）混在

動①：第1番線の混雑（歩行者の安全確保）

利⑤：内港に残る物流機能

景③：狩野川方向の眺望阻害

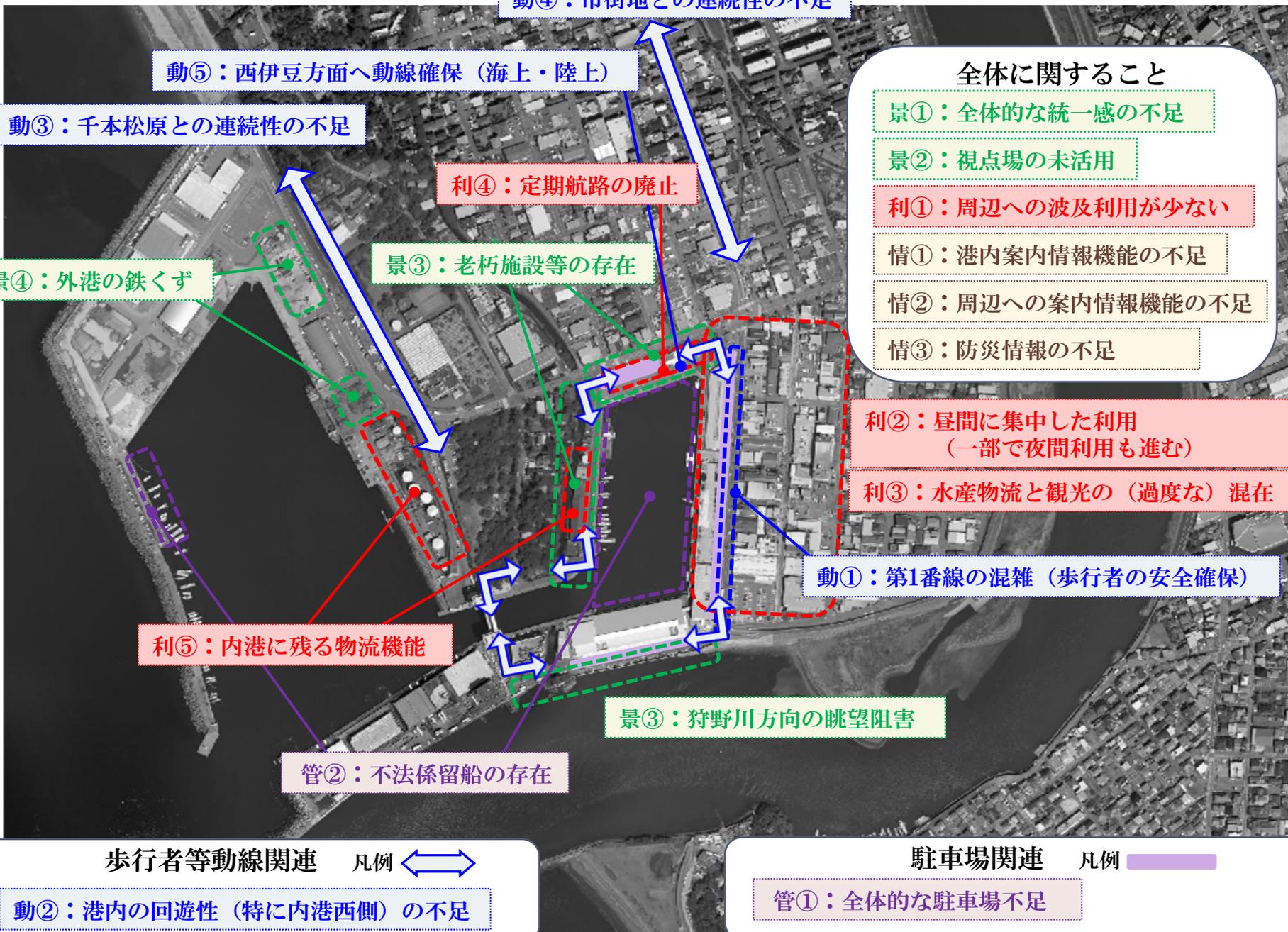
管②：不法係留船の存在

歩行者等動線関連 凡例 

動②：港内の回遊性（特に内港西側）の不足

駐車場関連 凡例 

管①：全体的な駐車場不足



沼津港の主な課題

<利用に関する課題>

- 利①：にぎわいが沼津港に集中し、周辺への波及効果が少ない。
- 利②：利用が昼間に集中している。（ただし、夜間営業する飲食店もあり改善が進んでいる。）
- 利③：市場関連車両の動線と観光客の動線が重なり安全性の確保に苦慮している。
- 利④：定期航路の廃止により、北物揚場の利用について再検討する必要がある。
- 利⑤：内港に残る物流機能を外港に集約することが望まれる。

<動線に関する課題>

- 動①：内港西側を歩く人が少なく、回遊性が生まれていない。（航路を渡れる「びゅうお」の未活用。）
- 動②：第1番線は、観光客の横断が多く、危険であるとともに、交通渋滞の原因ともなっている。
- 動③：沼津駅方面の市街地との連続性が不足している。
- 動④：沼津港から千本松原への連続性が不足している。
- 動⑤：沼津港から西伊豆方面へ新たな動線の確保。（海上・陸上）

<景観に関する課題>

- 景①：沼津港全体として、景観的な統一感がない。（建築物の色彩等）
- 景②：富士山、狩野川、千本松原、観音川、内港水面等、数多い視点場を活用しきれていない。
- 景③：老朽化した建築物等が良好な景観を損ねている。
- 景④：千本松原へ続く潮の音プロムナードから見える外港の鉄くずが景観を害している。
- 景⑤：防潮堤により狩野川河口、伊豆西海岸への眺望が遮蔽されている。

<情報提供に関する課題>

- 情①：情報提供施設の効率的な配置と内容の充実が望まれる。
- 情②：沼津港から歩いて行ける施設へいざなう情報が不足している。
- 情③：津波防災に関する総合的な情報提供が不足している。

<管理・その他に関連する課題>

- 管①：休日等ピーク時に駐車場が不足している。
- 管②：内港及び外港に不法係留しているプレジャーボート等の整理が必要。

意見発表

いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

静岡県交通基盤部

金子 綾さん (有)ブレインチャイルド 観光情報発信アドバイザー

メモとしてお使いください。

小松 浩二さん REFS代表

メモとしてお使いください。

小森 裕之さん 沼津グランドホテル 専務取締役

メモとしてお使いください。

佐藤 慎一郎さん 佐政水産株式会社 専務取締役

メモとしてお使いください。